

シグマ研究委員会 核融合^核データ・ワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 8 月 20 日 (木) 13:30 ~ 18:00
場 所 原研東海研 研 2 棟 322 号室
出席者 神田(九大), 村田(NAIG), 真木(日立)
田中, 中島, 関, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(56. 3. 24)議事録
2. Assessment of Nuclear Data for INTOR
3. High Priority Nuclear Data Measurement Requirements for the Reactor Programme and Corresponding Measurement Programmes
4. FNS 実験計画について

議 事

1. 前回議事録確認

資料(1)について確認を行い, FCA→FNS, 照射実験→実験(2カ所)の
ように訂正し了承された。

2. 一般報告

シグマ研究委員会の最近の状況, とくに本委員会(6/5)での話題, 運営
委員会での主な審議事項等について浅見より説明があった。その中で1981
研究会の概要の説明に対して議論を行い, 当WGとしては

「核融合炉ブランケット積分実験」

- (1) FNS 中村氏又は前川氏
- (2) OKTAVIAN 住田氏他

をとり挙げてもらうようプログラム検討委に申し入れることにした。

また, 神田氏より, 近く行われる核融合関係の研究会の紹介があった。

3. 資料の説明

- (1) 資料(2)について関氏より説明があった。先に INTOR 用核データについての日本からの要求の資料を INTOR Workshop へ提出していたが、提出したのは日本からだけであった。Workshopではそれを含めてまとめたものを IAEA NDS へ報告したとのことであった。
- (2) NEANDC の資料(3)について、浅見より説明があった。とくに Fusion 関係について議論が行われた。

4. FNS 実験計画について

関氏より、資料(4)をもとに FNS 及び実験装置の概要、実験計画、実験結果の解析等について説明があった。その中で ^{235}U 等の fission rate 実験の解析から、ENDF/B-IV の ^{12}C や ^7Li の核データ、とくに非弾性散乱データに問題のあることが指摘された。

このため、このWGで ^{12}C 、 ^7Li の ENDF/B-IV のデータ及び実験データを調査して検討することにした。この作業はとりあえずサブグループ(田中, 村田, 神田, 浅見)で行い、ある程度、作業が進んでからWG全体で討議することにした。

5. プロット作業経過報告

- (1) Al : 中島氏より経過報告があり、調査資料が提出された。
- (2) V, Fe : 田中氏より作業経過の報告があった。
- (3) 浅見より、FACOM 230/75 より M-200 に変更になったのに伴い、作図のための input data (JCL) をすべて変更したことが報告された。
- (4) Mo, Nb : 神田氏より作業経過について報告があった。
- (5) 真木氏の分担が決っていなかったが、B, ^{55}Mn , ^{59}Co を担当してもらうことにした。

なお、プロット作業の進め方について議論を行い、次のことが申し合わされた。

- ・ プロットの細部についてはあえて統一せず、場合毎に担当者が判断し

て決める。

- ENDF/B-V で使えるデータのあるものはプロットする。
- discrete level へゆく inelastic scattering のデータは実験データのあるもののみプロットする。

また、今後の作業の目標として

- threshold reaction データのプロットは10月一杯を目途にして作業を行う。
 - 各担当核種毎にプロットする反応のリストを作成する。
- ことにし、調査が終わり次第、結果を浅見へ送ることにした。

次回は11月6日(金)の予定、ただしサブグループの会合は作業状況により別途に開く。

以 上